

カエルの上陸② アカガエルも上陸した！ カエルの幼体観察会

5月15日の朝、猿江の池の周りを見てみると、**ヒキガエルが上陸していた**。Vol.144で紹介した上陸第一陣から2週間ちょっと遅れて、発生が少し遅かった第二陣がちょうど上陸していたのだ。しかも**この日はアカガエルも上陸していた！**アカガエルは個体数が少ないのでなかなかちょうどいいタイミングでは観察できない。年に一度、このタイミングでしか見ることのできないカエルの上陸の瞬間なので、ぜひみんなにも見てもらいたいと思い、3年生の授業で観察会を行うことにした。水辺と陸地の両方が必要な両生類は、とくに開発の影響を受けやすく、全国的に絶滅が危惧されている。上陸したての幼体の姿を見て、両生類を守るためにどうすれば良いのか一緒に考えてほしいと思った。

「主役のカエルたちを見つけないと始まらないから頑張って探して！でも小さいから踏まないでね！」と注意し搜索開始。その直後に「**いました！2匹！小さいー！**」と声上がる。早っ！しかも2匹はヒキガエルとアカガエルだった。一度草むらに入ってしまうと日中はなかなか姿を見ることはできないので、やっぱり今日すぐに見に来てよかった。早々と2種が揃ったので、両種のちがいや両生類の生存戦略について話しながらじっくり観察した。

この観察会の翌日、イオリが同じ場所をもう一度見に行き、「**カエルがアリに食われていた**」と教えてくれた。昨日みんなで観察した個体かもしれない…。おそらく、アリに直接襲われて死んだのではなく、死んでしまった個体にアリが群がっていたのだと思うが、やはりカエルの幼体にとって陸上に上がることはとても過酷なことなのだと思います。



通りすがりの男の子にカエルを見せてあげている様子



ニホンアカガエルの幼体とともに写真撮影 5/15 猿江恩賜公園
3年生の授業でカエルの観察会を実施。1年でこの時期だけ上陸の様子を見ることがができる。カエルなどの両生類の保全には、水辺と陸地の両方を維持することが必要だ。



ニホンアカガエルの幼体 ヒキガエルより少し大きい。この個体はまだ少し尾が残っている。



木の根に行く手を阻まれるヒキガエルの幼体
チビガエルにとっては根ですら大きな障害物だ。



たまたま写ったヒキガエル幼体のジャンプ
飛び跳ねながら移動し隠れる場所を探す。



アリが群がる（イオリ撮影）
観察会の翌日に池を再訪したイオリが、アリに食われている幼体を見つけ写真を見せてくれた。